



豆知識

オープンカンパニーと
インターンシップの違いって？

以前は「インターン」とひと括りで呼ばれていた学生のキャリア形成支援にかかわる取り組みは、現在は次のように4つに分類されています。

タイプ1・タイプ2

会社や業界の情報提供等や教育が目的で、就業体験を必須としない。インターンシップとは称さない。

タイプ1

オープンカンパニー

タイプ2

キャリア教育

タイプ3・タイプ4

インターンシップと称して実施。自身の能力の見極めや評価材料の取得が目的で、就業体験の実施が必須。

タイプ3

汎用的能力・ 専門活用型インターン シップ

タイプ4

高度専門型 インターンシップ

詳しくは
こちら



※概要資料「令和5年度から大学生等のインターンシップの取扱いが変わります」(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)より

企業研究をする際の ポイントは？

それぞれの企業の風土や働いている人の雰囲気、福利厚生や働きやすさのための制度、待遇面、勤務地など、知りたいことはたくさんあるかと思いますが、私がよくお話するのは「その企業のビジネスモデルをしっかり調べましょう」ということです。その上で「自分にこの仕事がやれるかな」と想像してみると、さらに知りたいことが出てくるはずです。

◎民間企業は、自分なりに
ビジネスモデルを調べてみる

たとえば…

何の商品を

誰に対して

どのような方法で

利益を上げているのか

◎その仕事をしている
自分を想像してみる

内定をゴールとしないためにも大切なことですよ



オープンカンパニーやインターンシップは、会社の雰囲気や働いている方たちの様子を実際に見ることができる貴重な機会です。その会社のよいところもそうではないところも、行ってみて初めて分かることは多くあります。できれば先輩社員から大変なことややりがい直接聞いてみてください。

採用面接では遠慮してしまうようなことも、この段階なら聞きやすいです。気になることは積極的に質問してみましょう



インターンシップ
参加時にはどんなことを
意識するとよいですか？

キャリアコンサルタント

土田恵介さん

教えてくれた人

学生の就職活動を支援して20年以上。のべ1万人の相談者とのべ2000社以上の企業とお話をしてきたベテランコンサルタント。「就活は“自分がどのような人間なのか”を知ることから始まります。ぜひ相談に来てください」



みやぎジョブカフェ

国仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン12F ☎022-264-4510
圏月・水・金曜10:00～20:00、火・木曜10:00～18:30、土曜10:00～18:00



就活って
何からどうすれば…



教えて！

キャリアコンサルタントさん

就活現在進行系の人でもこれから始める人にも役立つお話を『みやぎジョブカフェ』のキャリアコンサルタントさんに聞いてきました。

就活に臨む際の 心構えは ありますか？

就活中には苦しい時期もあるかもしれませんが、「自分はだめなんだ」と落ち込むのではなく、自分の適性が発揮できて自分を分かってくれる企業等が一つ決まればよいとある程度楽観的に構えていることも大切ではないでしょうか。また、興味があることに対して好奇心を持って行動してみることも大切です。これまでに多くの学生さんを見てきて、いいなと思う業界でアルバイトをしたり、自分の興味があることを周りに発信したりしている人には、自然に情報が集まってくるようになり、就活にもプラスになっているように感じます。

Point

- ・就職活動は長丁場。
ある程度楽観的に構えよう
- ・好奇心を持って行動しよう

特に文系の学生は、大学で学んでいる学問と職業が一致しないことも少なくありません。就活中はできるだけ広い視野を持ち、好奇心を忘れずにがんばってほしいです



みなさんが社会に出て充実した人生を送れるように、就職の観点から様々なバックアップをしています。就活のノウハウや情報提供はもちろんですが、私の場合は、『みやぎジョブカフェ』に訪れるたくさんの学生さん一人ひとりとじっくりお話をすることを大切にしています。ここを訪れる学生さんは、明確に志望する業界や企業が決まっている方が多いですが、就職活動を何から始めたらよいのか分からずに、業界も業種も決められない方も多くいます。そんな方々には、これまでの“経験・体験”を振り返りながらお話をしていくことで、自分自身の価値観や強みの“気づき”が得られるよう心がけています。もちろんその後も、寄り添いながら本人が納得できる就職をサポートしていきます。

『みやぎジョブカフェ』に
相談に訪れる人数

年間約 **5,700人**

土田さんが
面談する人数

年間 **600～800人**

たくさん利用者が
いるんですね



Point

- ・今の自分を形作っているのは
大学の4年間だけじゃない
- ・第三者から見た自分を
積極的に知ろう
- ・経験→大切にしていること
→強みの連想ゲーム

自己分析がムズカシイです…

採用する側は、応募者の能力・知識はもちろん、それ以上にその人のパーソナリティ(個性や人柄)を知りたいと考えています。仕事をする際には、能力・知識以上に個性や人柄が影響するからです。ですから、自己分析は自分のパーソナリティがしっかり伝わるような内容にする必要があります。本人が思っている、「リーダーシップがある」「人と接するのが少し苦手」「前向きで粘り強い」などの自己評価も、深く掘り下げることで、さらなる強みや、まったく意識していなかった個性に気づくことがあるものです。たとえば中学、高校時代の経験を振り返ってみると、自分の強みと価値観が見えてくるかもしれません。家族や身近な友達に聞いてみるのもよいでしょう。